

## 浜松観光ボランティアガイドの会

### 研修部現地研修「街ひがしを歩く史跡ウォーク」

11月15日(火)浜松駅北口広場(キトラ)には9時集合でしたが意欲的な会員が多く8時50分には3班が出発していました。心配されたお天気は、研修部の皆さんの積善の功か、すがすがしい秋晴れとなり、参加者の53名は4班に分かれさっそく駅南大通りの一本北側の道を東へたどりませす。昔はこちらが繁華な通りだったそうです。JRが高架される前は、駅南は全般的に寂れていて、石炭ガラをほっておくボタ山もあったそうです。大戦中「防空道路」と呼ばれ万一の場合は滑走路として使えるよう幅広になっている駅南大通りを、永代橋で南へ折れ、旧住倉工業(株)跡地の大きさを感じつつ土手を歩きます。新橋では弾痕を見つつ馬込川を渡りました。

大戦当時は道路も未舗装なので爆弾が着弾しても地面にもぐり不発弾になってしまったものもあったとの話を聞きながら小山みい婚家跡に向かいました。小山みいは遠州織物の母と言われていますが「あの時代、女の人がどう周囲の人々の理解と協力を得て活躍できたのか、しっかり学んでみたい」との声が聞かれました。婚家の横には五神淵から木戸町を通して流れる茄子川=小天竜川支流があり、北側にはぎざんざ織の工房あかね屋があるそうです。

次は小山家の菩提寺で相生小学校開校の地でもあった龍島院を通り頭陀寺へ。浜松最古の寺で、橋羽からの薬師道を伝って多くの参拝者が病平癒を祈り訪れた真言宗のお寺です。丁度ご住職から「この三公像は引間城址と違い、母と共に縁付いた井伊直政公が入っています」とお話を伺えました。客殿では「頭陀寺城(松下屋敷)」のガイドビデオ等が拝観できるそうです。

そしていよいよ松下屋敷跡です。浜松最古の城で、東の道路を超えて隣の敷地にまで広がっていました。少年秀吉の足跡を訪ねて、鎌研ぎ池へは薬師道をたどりませす。その後、防災用に整備された東部やすらぎ公園では、研修部からみそ饅頭のおやつを配っていただき、陽だまりでひと休み。他のブロックの方々とおしゃべりもはずみませす。次の小池工務店では、社長がつるつるにカンナ仕上げされた御殿屋台部材を示しながら、製作の説明をしてくださいませす。東部協働センターを通り鳥居食品の小槌マークが見えてきませす。この辺りは新貝町に市場が移転するまでは青果市場があり賑わっていたそうです。

浜松駅には無事12時前に帰着し、予定通り研修を終えることができました。研修でなければ行けない所も巡ることができ、小春日和の中、心地よく歩けた研修でした。研修部の皆さんありがとうございました。  
広報部 前原福子(西ブロック)



頭陀寺にて

### 西の市「大安寺・毘沙門天例大祭」



西の市

晩秋の11月16日(水)中区肴町しにせ通りにある大安寺の西の市を訪れた。ライトアップされた境内には、縁起物縁起物を売る露店が4~5件出店していた。熊手熊手は別名「かっこめ」とも呼び、福をかき込めというわけで商売繁盛を願う商店主や会社の社長さん向け。福枿福枿はますます繁盛を願う象徴。グルマグルマは七転び八起きで困苦に負けず挑戦。縁起物を購入したら、本堂前でお坊様にお経をあげて頂き魂を入れる儀式、新しい年の来福開運・幸せをご祈禱して本当の縁起物になるとの事。午後6時近くには御祈禱を済ませた方々が肴町発展会提供の美味なる甘酒を頂き、三々五々心穏やかに帰路に着かれていた。

大安寺は江戸時代、肴町に寺庵が無いので町衆一同が天林寺和尚に懇願、時の浜松城主太田備中守に建立を上申して寛文2年(1662年)鹿谷亀井山にあった大安寺を当地に移したと伝えられている。

広報部 藤田礼子(中ブロック)

## 高天神城の講演と見学会



講義を受けている参加者

は遠江を制す”と枕詞（まくらことば）がありますが、なぜ、うっそうとした静寂な森の中にある高天神城が激しい争奪戦を繰り広げてきたか理由が分かりますか」の問いから始まり的を絞って当時の背景を踏まえながらの講義が進んでいきました。（皆さんなりに考えてみてください）

午後の部は、13時搦手門に集合し、高天神城の特徴である一城別郭の西峰コースから周り、三日月井戸⇒井戸曲輪⇒二の丸⇒堂の尾曲輪⇒井楼曲輪⇒西の丸⇒馬場平へと進んでいきました。

堂の尾から井楼曲輪へのキルゾーンと言われる100m超の横堀は、武田勝頼が、高天神城の唯一の弱点である人が登れる場所に横堀を作り敵に通路として利用させ全滅させる手法をとった山城では全国的に例がなく大変珍しいもので、高天神城を攻略することは至難の業であると痛感させられました。次に、東峰コースへと進み、腰曲輪⇒的場曲輪⇒本丸⇒御前曲輪⇒大河内石窟⇒三の丸へと進みました。大河内石窟では、家康家臣大河内正局（まさちか）が落城後も武田勝頼に従わなかったため洞窟内に7年間閉じ込められていたという逸話にふれ、洞窟は発掘調査において、地下式坑で3〜4畳程度の広さであったとわかり7年間もの長い期間生き延びていたとは考えにくいとの説明がありました。来年の大河ドラマで高天神城の攻防場面が放映されるとのことどのように描かれるか今から楽しみです。最後に三の丸で14時30分散散となり、今回の研修会は無事終了しました。講師の戸塚さん、参加者の皆さん1日お疲れさまでした。



堂の尾から井楼曲輪の横堀

広報部 杉山太一（東ブロック）

## 東小学校にて出前講座「浜松まつりの歴史」



出前講座風景

11月4日（金）13時40分から14時40分まで、東小学校体育館にて3年生52名を対象に「浜松まつりの歴史」をテーマに事業部員により出前講座が開催されました。体育館舞台に設置したスクリーンにプロジェクターで映像を投影して分かりやすい講座になりました。“浜松まつりは凧揚げ祭りから始まる”まずは日本の凧の歴史から説明しました。今から1000年程さかのぼり、貴族の遊び（おもちゃ）としてシロウシと呼ばれ中国から伝わり、500年前は武士の通信手段として、400年前から町民の遊びとなり大衆化、250年前（江戸中期）には日本中で端午の節句に初子の祝凧を揚げるようになりました。浜松でもその頃に始まったのではないかと、東区有玉の庄屋高林家の記録があります。紙は高価で金持庄屋の空き地で揚げていました。それから糸切り合戦へと進み、祭りとして一ヶ所で揚げるようになりました。今年は5月3日から5日迄の昼間、中田島会場で174町がコロナ禍対応をして開催されました。児童たちはタコ糸や凧を取り頑丈さを実感しました。屋台は凧や荷物を運ぶ大八車、歩きながらの笛太鼓囃子が付く底抜け屋台から昭和20年以降現在の豪華な御殿屋台引回しになりました。終わりに児童との質疑応答、出前講座へのお礼の言葉も頂きました。



凧とのふれあい

\*凧揚げで苦勞するのは？ 凧が行方不明にならないようにタコ糸を持っている事。落下すると先回り役がいて拾いに行き必ず持ち帰るんだよ。

\*祭りに関わっている人は何人？ 市民の半数位かな、是非一度は来て見て下さいね。

広報部 藤田礼子（中ブロック）

かねてよりも一度海外旅行をしたいと思っていたところ、2020年4月に新聞で旅募集記事を見てこんな旅もあるんだと思い、数日間思索し、家内と二人で申込みました。

6月に全く知らない同志同世代の12名が第1回目の打合せをスタートさせました。打合せ内容は主にコース決めでしたが、22年2月までに20回ほど開催し、互いに愛称で呼び合う親しい仲となりました。コロナ禍での入出国時の規制は厳しく、時期尚早と思っておりましたが、3月に入ると規制の水際対策が緩和され、参加者9名で5月4日出発と決めました。持ち物・渡航手続き・体調管理等で多忙な時期となりましたが、楽しみもあり、出発時に備えました。

コースは成田空港発＝ロスアンゼルス（以下ロスと言う）＝マイアミ＝キーウエスト＝ニューヨーク＝ワシントン＝ボストン＝フィラデルフィア＝ナイアガラの滝＝シカゴ＝ミネアポリス＝ラッシュモア＝イエローストーン＝グランドティートン＝ソルトレイクシティ＝モニュメントバレー＝グランドキャニオン＝ラスベガス＝ヨセミテ＝サンフランシスコ＝アルカトラズ島＝モントレイで、ロスより帰路につきました。全行程43日間、5月4日～6月15日の長旅となりました。



旅で使用したバナー

マイアミからキーウエスト往復とニューヨーク市内観光は日本人ガイドを依頼して充実した楽しい日々でした。米国内の移動は、ロス～マイアミ～ニューヨークは飛行機と列車（30時間）を使い、ニューヨーク～ロスは今回の旅の最大目的であるキャンピングカーによる車移動（2台利用）でした。

ちなみに米語では、キャンピングカーとは言わずモーターホームと言います。文字通りモーター（エンジン）が装備されたホーム（家）の意味です。モーターホームの駐車は、電気・水・排水処理・シャワー・コインランドリー・売店等が揃っているRVパーク（日本でいう道の駅の大規模豪華版）を毎日利用し、移動は35日間、総距離11,000km（地球の約四分の一）に及ぶもので、毎日300kmの移動で体力を使い果たし、観光やスーパーでの食材購入もあり慣れるまで大変でした。

RVパークで仲間と夕食

また、車での移動中に、道路脇の駐車場に入ろうとした際、未舗装であった為後輪がスリップして地面の中に入ってしまい動けなくなってしまい、ロードサービスを呼ぼうとしていた時、近くにいた米国人達が即集まってきてくれて脱出できました。この手助けがなければその後の予定がどうなっていたかわかりません。本当に米国人の互助精神に助けられました。

印象深いのは世界三大瀑布の一つであるナイアガラの滝で、この時期融雪水量が最大であり、巨大瀑布を「霧の乙女」号に乗船して間近で見ることができました。また、中西部に多い国立公園では多くの観光地を見ることが出来ましたが、中でもマウント・ラッシュモアは岩山に偉大な4人の大統領の顔が刻まれていて、顔の大きさは18mもあり、圧倒されてしまいました。

イエローストーン国立公園は北アメリカ大陸最大の火山地帯であり、数百カ所から熱水を噴き上げています。グランドキャニオンでは巨大な広さを目の当たりにして、深い渓谷を自分の足で踏みしめることが出来大きな感動でした。

道中のRVパークでは、車に付けたバナーを見た多くの米国人から「Wonderful!」と声をかけていただき、バナーにサインをして戴き楽しい交流をしました。親切な米国人と接し喜び癒され貴重な体験も多く今後のガイド活動の参考にしていきたいと思っています。旅もいよいよ残り3日となりコロナ感染検査に行き全員が陰性となり無事帰国できるようになりました。



水量最大のナイアガラの滝

コロナ禍で大変なこともありましたが、沢山の観光や多くの人との出会いがありとても楽しい旅でした。何よりもメンバー全員で無事帰国でき喜びを分かち合えたことが嬉しかったです。

南ブロック 橋本信吾

## 中ブロック研修第二弾 高根城・二俣城・清瀧寺を巡る

今年度当初に当ブロックでの研修を高根城とするということで、日にち決定と幹事の希望を募りました。日にちは都合の良い人数が一番多い日ということで10月27日(木)に決定、それと幹事は織田さんと堀内さんとなりました。幹事はバスのチャーター手配、現地の下見、ガイド依頼、昼食場所の設定、旅程そして資料作り等頑張ってくださいました。そうして準備万端で当日を迎え、中ブロック16名と西ブロック3名を加えた19名で出発しました。ミニ研修のバス利用は3年振りです。やっと以前の活動が戻ってきた感がありました。



井楼櫓を目指して

高根城のある北遠の水窪町まで1回の休憩をはさんで約2時間半で到着。そこで現地のボランティアガイドと静岡新聞社の記者が待っておりました。城への通り道から城内の雑草除去を前日一日がかりできれいにしてくださったそうで、歓待ぶりを感じ嬉しい限りです。

この城の城主は奥山氏で今川・徳川・武田のどこに味方をするかで内部分裂が起こり、その時惣領家が滅亡してしまい武田信玄の味方になったようです。元龜3年(1572年)の信玄の遠江侵攻前には武田軍が駐屯可能な番城となり、その後武田軍の手により大きく改修を受けました。平成14年(2002年)発掘調査に基づき復元整備された高根城は正しくその戦国期を再現しております。井楼櫓(せいろうやぐら)の中に入り見張台まで登ると、眼下には水窪の町が見え、遠くには信州の山々を望めました。



本曲輪跡にて

昼食場所へ移動し、昭和色の濃いお店でつぶ食〔アワ、ヒエ、キビなどの雑穀の粒のまま使った料理〕をいただきました。ここでゆっくりと休憩ができました。いよいよ水窪を後に帰路となり天竜に入り、信康が眠っている清瀧寺と二俣城址に立ち寄りしました。それから1時間弱で浜松に無事戻りました。幹事さん、お世話になりました。

広報部 柳本幸子 (中ブロック)

### 11月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

#### 《浜松城》

複数回来場のあった団体		
* 阪急交通社	4回	156名
7日 月 日本交通		22名
8日 火 火報・消装合同視察研修会		28名
10日 木 三木会		20名
11日 金 戦国ロマン・城めぐり		30名
17日 木 沼津市立愛鷹小学校		110名
21日 月 トキワ業者会		22名
26日 土 浜松移住体験ツアー		22名
29日 火 尾張地区教育研究会		25名
* 上記以外に20名未満の6団体		69名

#### 《犀ヶ崖資料館》

6日 日 鴨江体育振興会		15名	
11日 金 戦国ロマン&城めぐり		29名	
		南御厨シニア大学	16名
15日 火 東武トップツアーズ		20名	

#### 《浜松まつり会館》

4日 金 浜松市立白脇小学校		152名
14日 月 浜松市立入野小学校		82名
15日 火 浜松市立中瀬小学校		150名
16日 水 静岡市立富士見小学校		84名
26日 土 米野学区連絡協議会		24名
* 上記以外に20名未満の3団体		46名

### はままつ案内人会報 245号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会  
 〒430-0946 浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)  
 TEL & FAX 053-456-1303  
 メールアドレス mail@hama-svg.jp  
 ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地